

1 児童生徒の学びをサポートするICT活用

(3) 児童生徒の能力や特性に応じた学び

こんな実践

研究テーマ「自ら願いをもち、友と関わりながら話す・聞く力を伸ばす授業のあり方～映像を通じた自己対話に焦点をあてて～」のもと、ICTを効果的に活用することを通して、話す力を育てていくことを目指した実践です。

実践学校 R小学校

実践学年 2学年

実践時期 11月上旬

単元・題材名「上手に伝わるといいな ～あったらいいなと思う道具～」

- 「自分にとってあったらいいなと思う道具」について自分や友達がスピーチをする様子を、タブレット端末で録画し、観点に沿って振り返るようにしました。

また、録画するだけでなく、実際の聞き手の距離で友達が聞くようにし、声の大きさについて助言し合う場面を設定したり、タブレット端末にモデルの映像を保存し、それと自分のスピーチの様子とを比較して、聞き取りやすい速さを考える場面を設定したりしました。

**ここがポイント！**

- ・音声言語は残らないため、声の大きさや速さが適切かどうかを自分で客観的に振り返れるように、タブレット型端末で録画しました。国語科の特質を踏まえ、子どもたちにどのような資質・能力を身に付けさせたいかを明確にした上で、効果的にICTを活用していくことが大切です。

まとめ

・聞く人に伝わるように声の大きさを工夫したり、自分のスピーチの映像とモデルの映像とを比較したりして、「速さがわかった。もうちょっと遅く」と聞き取りやすい速さに気づき、練習を繰り返すことで、「伝えたい事柄や相手に応じて、声の大きさや速さなどを工夫する」といったことを身に付けていく姿がありました。